

らか場立の育保兒幼島本

園稚幼育愛立私市北臺

花 竹 佐

感化されて、内臺人の見別けのつかぬまで
になりまます事は眞に欣ばしい現象で御座い
ます。
事變以來特に本島兒及びその保護者に對
して凡ての生活を内地人化に努めさせ、日
本國民精神の基礎即ち
一、皇室及び國家に對して尊崇の念を養
ふ事

私たちの幼稚
園は、大正六年
から本島人(臺
灣人)幼兒をお
世話して居りま
す。
今年は二十一
回の修了兒を送
りましたが、其
間、直接本島兒
の保育に當りま
す私達保姆に
は、幼稚園令に
ある本來の目的

二、國旗、國歌に對する禮儀を知らせる
事

三、敬神の念を養ひ先祖を崇拜すること

四、日本人である幸福を感謝すること

に努めて居ります。

尙一般本島人も當局の御指導により、よ
く時局を認識し皇民化に努力する様になり

以外に、「國語に慣れさせ、國風に同化す
る。」と云ふ事は忘れてならない大切な使命
でした。

大人になつてからでは、今迄の臺灣の傳
統的な生活が浸み込んで居るために、急に
改まつて日本人としての生活に入る事は困
難です。

故に幼兒時代から内地人の生活に親しま
せれば自然のうちに、内地人、本島人が融
和して、内地人の氣持ちにも通ずる事が出
來ます。

従つて日本精神にも通ずる事が出來、國
家心を養ふ素となるので御座います。

其の爲には、言語を覚え易い幼兒時代に、

殊に國語講習所も各所に設けられ、六十の
老人までも競つて入所し、今日では國語を
解せぬものが少なくなりました。従つて服
装等も改善せられ昔の様な風俗は殆んど影
をひそめるまでに至りました。

幼稚園開設當時を顧み眞に今昔の感に堪
えないものが御座います。

最初から、日本國民としての正しい國語
に親しませ、耳に聴き慣れさせ、且無造作
に語らせる事は非常に効果的ですから、日
常保育の上に色々の工夫、實際取扱ひの上
に細かい注意が要るので御座います。

次に記しました事は、ほんの自由遊びの
折の一つの表れに過ぎませんが、こうした
場面を繰り返して國語の習得になつて行き
ます。

A

今日、キンダーブックを配りました。持
ち易い様にとクル／＼巻いてしはつてあげ
ましたので、子供達は大悦びです。早速口
にあて、「トテテテテター……先生、

「僕兵隊さんよ」……と云ふ子はおとなしい方で、中にはお互におつむをポン／＼竹刀の積りでやつて居ります。其のうち「先生これ……と泣き相な聲がします。行つて見ると巻いてある輪本の上が一寸裂けて居りました。「破れたの?」……「ウン破れた」……此の發表しかねて居る言葉を補はれて英暉ちゃんは満足さう。

B
お山が出来た、トンネルが、汽車が、公園が出来上つた時の満足さうな顔、純真なほゝ笑み……

「昨日雨が降りましたねー」
「先生、虹見たよ」
「僕のお父さん雨ザア／＼頭死んだよ」
「アラさう……頭が痛くなつたんでせう」
「ヤッ」
知つて居る範囲内で如何に表現し様かと思つて居る様子がうかゞはれます。
苦心して居る様子がうかゞはれます。

C
急にバタ／＼と靴音がして、しつかり手を握りしめた玉梅さんが馳けて來ました。そして、手を開いて見せて、

「先生、これなあに。」
「ぞーれ、あ、これね、カタツムリ」
「カタツムリ、カタツムリ面白いねー、カタツムリの着物丸いねー、お目々こんなに長いねー臺灣語ローレイと云ふのよ」
もう一度カタツムリと云つて彼方へ行つて仕舞ひました。

D
瑞林さんは何んでもおしまひに、ソー、をつけないと話しにくひらしい。

「先生ワー、僕ワ、活動ワー、行つたワー」
とたてつゞけに申します。
「マー、よかつたのねー……僕は誰と活動に行つたの?」と靜かに尋ねてやりますと、
「僕はお母さんと活動に行つたよ」と嬉し氣なお返事をきく事が出来ました。
こうして話して居る内に、自然テニヲハの使ひ方もわかつて參ります。

新幼稚園唱歌 草川 信 共編
坊田 勲 監修

著者の序文にもございます様に、お子様を通して幼稚園生活をお知りになり、又屢々幼稚園を訪問され、保姆と懇談されて後に著者の心に浮かべられたといふ數十の歌曲がおさめられてございます。著者は人も知る幼児唱歌作曲の大家。

何れも簡に過ぎず微に入らず、従来の幼稚園唱歌に飽き足らなさを感じて居らるゝ方には、必ずや満足を感じて迎へらるゝことと信じてます。その上、巻末には、強弱のつけ方、強弱歌ふ心持に至るまで懇切丁寧に説明が加へられてあります。之に依つて指導者の立場にある保姆は實に確かな指針を得らるゝことになり

大方の御購讀を切にお奨めする次第です。

(四六版、美本、定價 八拾五錢)
(送料 拾貳錢)
發行所 教育音楽書出版協會
東京・神田錦町三ノ十一